

高次脳機能障害者支援セミナー ～就労支援の現状と展望～

社会福祉法人 明光会

〒421-1211 静岡市葵区慈悲尾 180

助成事業の概要

この事業は「高次脳機能支援普及事業」を受託してから増えている高次脳機能障害者への支援、特に困難視されている就労支援について現状を知りそこから見えてくる課題に対してどのように解決策を講じていけばよいか、高次脳機能障害者の就労をさらに進めるためにはどうしたらよいかについて当事者、家族、支援者が集まって意見交換し支援策を考え関係者間の連携を深める目的をもっておこなわれるものです。

高次脳機能障害者への就労支援の現状については浜松市で高次脳機能障害者への就労移行支援を専門に行っている「ワークセンター大きな木」所長の建木良子さんに講演をお願いしました。作業療法士の経験を生かした支援方針や独自の支援プログラム支援事例の紹介を通じて高次脳機能障害者への就労支援の現状を参加者に理解していただきます。続いて行いますシンポジウムは「高次脳機能障害者の就労を考える～支援の課題と展望～」と題し、高次脳機能障害を持ちながら支援を受けて就労している当事者、脳外傷友の会の代表としても活動している当事者家族、支援者の立場から静岡障害者職業センターの障害者職業カウンセラー、病院でリハビリテーションを担っている作業療法士をシンポジストに迎え、さらに後援者にも加わっていただいて意見交換をしながら現状での支援の課題を明らかにし今後の支援のありかたを展望します。当事者、家族からは現在の生活の様子や就職先での配慮、理解がどのようにされているか、支援者に望むこと、当事者、家族とし

てできること等をお話しいただきます。支援者からは支援の課題、解決策、支援機関同士の連携について、また当事者、家族へ望むこと等をお話しいただきます。また適宜会場からのご意見も伺いながら進めていきます。

- ・開催時期 平成 25 年 2 月 23 日
- ・開催時間 午後 1 時～午後 4 時 30 分
- ・開催場所 静岡県総合社会福祉会館 703 会議室
- ・参加者 高次脳機能障害を持つ当事者、その家族、障害者就労支援事業所職員、リハビリテーション関係者、障害者相談支援事業所相談員、行政機関、企業採用担当者等
- ・内容 主催者挨拶
来賓挨拶

講演「高次脳機能障害者への就労支援はどう行われているのか」

講師「ワークセンター大きな木」

所長 建木 良子 氏

～休憩（～シンポジウム「高次脳機能障害者の就労を考える～支援の課題と展望～」

シンポジスト：当事者、家族、

小林 晃子 氏（城西神経内科クリニック）

阿形 たか子 氏（静岡障害者職業センター）

建木 良子 氏（ワークセンター大きな木）

コーディネーター：障害者就業・生活支援センター
さつき 中村文久

事業の成果

開催日当日は、当事者団体の脳外傷友の会勉強会が別に開催されていたこともあり当事者、家族の参加が少なかったものの約80名が集まった。

講演では静岡県内に数多くある就労移行支援事業所のなかでおそらく唯一と思われる高次脳機能障害者専門の事業所としての理念、設立の経緯、支援の方針等が分かりやすく説明された。また作業療法士ならではの支援プログラムや実際の支援事例の紹介を通じ高次脳機能障害者への支援がどのように行われているかよく理解することができたと思う。静岡市内にある就労移行支援事業所職員も参加されていたので今後の支援の参考となったのではないかと。福祉系の事業所にとって連携の必要性を感じつつも敷居が高く繋がりが薄い病院との繋がりについても参考になる話があった。

シンポジウムでは、高次脳機能障害を抱えながらも一般企業で就労している富士市在住の当事者とその母親、働き盛りに突然この障害を持った夫を妻として、またある時はジョブコーチとなって支えるだけでなく脳外傷友の会の代表としてこの障害の理解や支援の普及に尽力している当事者家族の参加を得たことで話がより深いものになったと思う。障害の受容の困難さ、ようやく支援機関にたどり着いたときの安心感、啓蒙活動は行われているもののまだまだ理解の進んでいない社会環境等が浮き彫りとなった。

支援者の立場で出席された3名は、職業訓練・評価、就労・地域生活支援、医療(リハビリテーション)と同じ支援者ではあるが担当領域が違い支援機関の連携の重要性を感じさせるものとなった。特に福祉分野の支援者は日頃から病院(医療関係者)との間に壁があると感じている。高次脳機能障害者への支援においてはもっと積極的に医療関係者へ働きかける必要があるし必要な情報は提供してもらおうべきであるということであった。就

労支援機関も企業等へ情報提供する場合により細かく具体的に当事者ができること、配慮して欲しいことを伝えることが必要である。このことが連携ということであるとの結論を得た。

成果の広報、公表

当日の様子は、27日付けの静岡新聞朝刊の静岡版で広く報道された。関係機関の方からも「記事を見た」と関心を示して下さっている。このセミナーの様子は、当法人のホームページで広く広報を行なう他、サポートセンター北斗、支援センターさつき就労移行支援事業所けやきワークセンターの各部署にて発行する広報誌上でも紹介していく予定である。また当日の講演資料とシンポジウムの様子、写真等をまとめた冊子「高次脳機能障害者支援センター報告」を発行し当日参加いただいた福祉、医療関係者企業人事担当者をはじめ行政機関、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所等の関係各機関へ配布し今後の支援に活用していただく予定である。

今後の展開

高次脳機能障害者への就労支援は多くの地域においてははまだ緒についたばかりである。各圏域の高次脳機能障害者支援拠点が中心になっての支援が今後も継続していくものと考えられるがこのセミナーで明らかとなったように福祉、医療、行政、企業(事業主)が連携しチームとして支援にあたる必要がある。支援拠点にはこの関係者間のコーディネートをお願いし各機関の持っている力を最大限引き出してもらいたいものである。当事者や家族の団体ではこの障害を理解してもらうための啓発活動を今後も展開していくとのことである。このようなセミナーが今後も多く聞かれわかりにくい障害に対する理解が進んでいくことと

思われる。この障害は誰もがいつ何時でも負う可能性があるものである。しかも就労している年代に多いので生活そのものがたちまち揺らいでしまうという問題がある。単に高次脳機能障害者への就労支援というだけの問題ではなく社会全体の問題としてとらえていくべきであり今後は個々の支援における連携だけではなくもっと幅広い面での連携を構築していく必要があると思う。静岡圏域の高次脳機能障害支援拠点としての活動に加え幅広い支援体制の構築に向け努力していくこととしたい。